

マーケットの動き（2025年6月23日～6月27日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。週初は、22日に米国がイランの核施設を攻撃したことで、原油価格上昇による物価上昇懸念が高まったことなどを受け、国内長期金利は上昇しました。その後は、25日に公表された日銀金融政策決定会合の主な意見を受け、早期利上げ観測が後退したことで金利は低下しましたが、中東情勢の安定化期待や、関税交渉の進展期待などから債券は売られました。クレジット市場は、旺盛な投資家需要を背景に、堅調に推移しました。

投資環境見通し（2025年6月）

国内長期金利はレンジ内で推移

米中貿易協議に進展がみられた後、国内長期金利は超長期の年限で国債利回りの上昇が波及する形で上昇しました。ただし、日米貿易協議において顕著な進展はみられず、景気下押しも懸念されることから、日銀による早期の利上げ観測は後退しているとみられます。一方、7月の参議院議員選挙を控えて政府による景気対策が打ち出される可能性もあり、国内長期金利は上昇・低下の双方材料が交錯する中、レンジ内で推移するとみています。

	6月27日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	1.43	0.01	▲0.03	0.34	0.36
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	348.73	0.00%	0.24%	▲2.42%	▲2.22%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

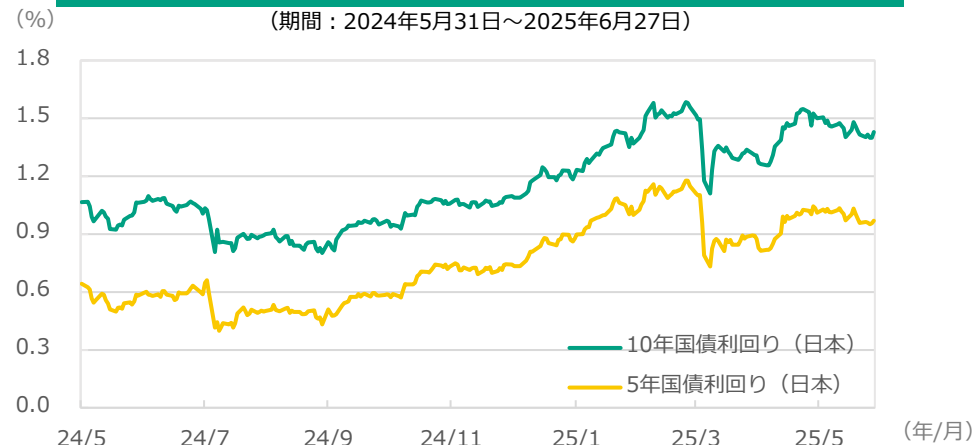
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202506_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月27日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年5月31日～2025年6月27日）



※2024年5月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成